

1	名古屋	山吹小学校	マツダ タクヤ ----- 名前 松田拓也
分科会番号	7	分科会名	美術教育

研究題目 児童自ら生きて働く知識を習得する造形活動

研究要項

I 研究のねらい

私は、図画工作科の鑑賞や表現の活動において、自ら生きて働く知識を習得する児童を育成したい。学習指導要領図画工作編では、知識について、「自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること」と示し、表現及び鑑賞の各活動において、常に配慮しながら指導する必要があるとしている。私は「造形活動で習得する生きて働く知識」を「鑑賞や表現の活動において、自分の感覚や行為とともに自分のイメージをもつときに働かせる知識」と捉えている。児童が自らその知識を習得するためには、対象や事象を「形や色」「形や色などの感じ」「形や色などの造形的な特徴」などの造形的な視点で捉えながら、鑑賞したり表現したりすることが大切であると考え。児童が各発達段階で、そのような経験を積むことによって、これまで以上に身に付けた知識を生かして、対象や事象のよさや美しさを感じ取ったり、工夫したりすることができるようになると思う。

児童が、自ら生きて働く知識を習得するためには、対象や事象を造形的な視点で捉えながら、「もっとうちしたい」「いいこと思い付いた」などつぶやき、何をどう表すか自分で選んで決める場が大切である。また、思いを十分に膨らませ、豊かに発想することで、次から次にアイデアが湧き上がる、作品のよさや美しさに心から感動するなど、児童一人一人のよさがつながり共有される場が必要である。また、活動を振り返り、自ら鑑賞したり表現したりしたことに満足感を味わい、「思い通りにできた」「みんなに見てほしい」と感じられるように、心が満たされる場も必要である。それら三つの場の設定を工夫し、児童が自ら生きて働く知識を着実に習得し、鑑賞したり表現したりできる造形活動を展開していきたいと考えた。そのため、以下の三つを重点として本実践を行っていく。

重点1 自分で選んで決める場の工夫

「何を」「どう表すか」について、自己決定できる場を増やす。どうしてそれを選ぶのか、ワークシートの記述や会話から、自分の考えを深めていくことができるように工夫する。

重点2 つながる場の工夫

自分の表したいもののイメージを明確にしたり、自分の作品づくりに生かすために、友達と意見を交わしたり、周囲の作品づくりの様子を知ったりできるように工夫する。

重点3 心を満たす場の工夫

鑑賞や表現を通じて、他者の温かいまなざしを感じたり、励ましや認められる言葉を掛けられたりする工夫する。

II 研究の内容

1 対象児童 名古屋市立山吹小学校 第3学年31名

2 題材について

「SDGsのことばから形・色」(7時間完了)

本題材は、SDGsの17個の目標と内容を学び、その目標や内容の中から気になる言葉を選んで自由に表現したいことを想像し絵に表す題材である。

3 活動の様子

1時間目『SDGsかるた』『SDGsすごろく』を使って、楽しく17の目標とその内容を学ぼう

重点2 つながる場の工夫

SDGsの目標とその内容を学ぶ上で、エコパルなごやが製作したSDGsかるたとすごろくを使うことで、「これはこの目標のことを言っているんじゃない？」や「自分もよくリサイクルをしているよ」など、遊びの中で友達と関わり合いながら自然と学んでいくことができた。



【SDGsかるた】



【SDGsすごろく】



【実際にすごろくを楽しむ様子】

まず、SDGsのことを学ぶために、冊子やインターネットを使って調べまとめるのではなく、楽しみながら自然と学べることや、友達に意見や考えを伝え合う素地を育てるためエコパルなごやが製作した、かるたとすごろくを使うことにした。児童はまず、かるたやすごろくで遊べるということに大喜びの様子であった。また、すごろくのルール、やり方などは詳しく説明せず、児童がルールの確認ややり方を話し合うことでつながれる工夫をした。さらにメンバーを定期的に変えることで、多様な人と学び合う機会と意識付けを行った。それにより、「さっきはこういうルールだったよ」や「もっとこうしようよ」と話し合う様子が見られた。遊びの中で、「これはこの目標のことを言っているんじゃない？」や「自分もよくリサイクルをしているよ」と自然とSDGsに関する話を話す様子も見られた。

2～3時間目 言葉による想像の違いを感じ、SDGsについて深めよう。

重点1 自分で選んで決める場の工夫

興味のある目標を自分で選び、アイデアのまとめ方や製作の進め方を自分で決めることで、意欲的に製作に取り組むことができた。

重点2 つながる場の工夫

学年全体で集まることで、普段関わりが少ない子との交流を促すことができた。丸いホワイトボードを使うことで、意見の出しやすい場をつくることもできた。

作品展に向け、学年全体で集まり共通意識を高めた。まず、題材が「ことばから形・色」なので、同じ言葉でも想像することが違ったり、考えを聞くことでイメージが広がったりすることを「ボール」と「空」という言葉から体験した。イメージを膨らませ、質感や連想できるもの、情景や様子、色の鮮やかさも想像することができた。そして、人には感性があり、同じ言葉でも想像するものが違うことを理解し、感じ方に正解はないことも学年で共有することができた。

バスケットボール！

ドッジボール

硬い？ 僕は柔らかいイメージ！

空き地！

ボールといえば



空

といえば

雨が降ってる！ かみなり！

きれいな青空に虹が見える！

くもり。暗いイメージかな～

その後、SDGs 17個の目標の言葉から考えを広げる活動を行った。丸いホワイトボードに目標を書いた紙を貼り、その周りに思い浮かんだ言葉をどんどんと書いていった。それを4、5回くり返し、自分が気になる目標について様々な人と交流することができた。

「陸の豊かさは、森が思い浮かぶな～」

「プール」

「きれいな水」

「青色だね」

「森と言えば緑だね。」

「山から水が来るイメージだな～」

「そこには滝もあるかも！」





「この前、社会で下水処理場も勉強したね」

活動後全体に、「SDGsのことを勉強して、今日はイメージを広げました。そのイメージを絵に表して、たくさんの人に伝えたくないかな？」と問いかけると「伝えたーい！」「もう描きたい絵が思い浮かんでる！」と、児童自らが絵に表したいと思うことができた。その後、プリントを使って自分の考えをはっきりさせた。そのまま体育館に残って、ホワイトボードを見ながら書く子、教室に戻ってSDGsの冊子やインターネットを使ってより詳しく調べる子、友達と話を進めて考えを深める子など、自分に合ったペースや方法で学びを進めることができた。



【残って話し合う様子】



【教室に戻って調べる様子】

4～6時間目 イメージを絵に表そう。

重点1 自分で選んで決める場の工夫

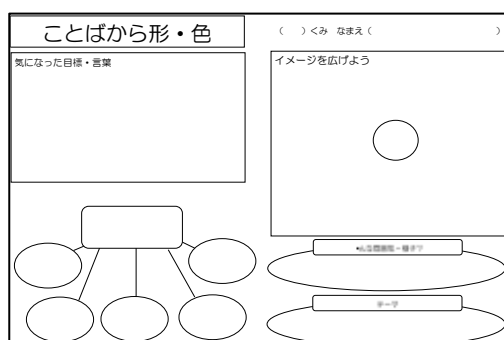
実際に描いて、比べて、表現の違いを感じ「画用紙の色や画材」を選んだり、普段の学習から行っている、「自分にあった環境で学ぶ」ために「誰とどこで学ぶのか」も毎時間変えたりした。

重点3 心を満たす場の工夫

友達の製作が見えるような机配置を工夫することで、ゆるやかな協働性の中で自律して絵を描く様子が見られた。また、自分の納得いくまで何枚も描き直す子や、じっくり1枚を丁寧に仕上げる子など、様々な取り組み方で粘り強く絵を描く様子も見られた。

絵に表す場面では、描く前に「どの目標」で「どんな様子や雰囲気か」そして、「テーマは何か」を考えさせ、一人一人と話しをよくしてから描いた。前時の活動により、何を描きたいかで悩む児童は少なく、すぐに製作に取り掛かることができた。画用紙の色は自分が表したい雰囲気やテーマに合う色を選択していった。また、3年生から学習する絵の具を使えると良いということは伝えるものの、パス、色鉛筆、鉛筆など、自分が表したいものに合った画材選びもさせていった。それにより、「細かい模様を描きたいから鉛筆を使った」や「絵の具より綺麗に細かく塗れそうだから色鉛筆にしたよ」と強制されて失敗したと思うことなく、自分の思いをもって絵を描き進めることができた。さらに普段の学習から行っている。「どこで」「誰と」「どのように」を毎時間のように変え、様々な子と製作したり、一人で集中して製作したりと、個々に合わせた学習への取り組みもできた。描く枚数も制限しないことで、何枚も描き上げ、その過程で友達の良さを取り入れる子や、丁寧に細かく描き進め、1枚を描き上げる子など、それぞれが満足いく絵を完成させることができた。

描き始める1時間目には、教室の中で机を円の形にし、全員が内側を向くことでクラス全体の友達の製作の様子が分かったり、気軽に席を離れ、アドバイスをもらったりするなど、つながりながら製作することができた。「めっちゃ綺麗」「先生、これ見て」と自分の作品だけではなく、友達の作品を褒める様子もたくさん見られた。



【使用したワークシート】



【タブレットを使い、広い床で製作する様子】

7時間目 作品を鑑賞しよう。

重点2 つながる場の工夫

学年全体で鑑賞することで、製作した友達にすぐ質問ができたり、感想を伝えたりすることができた。また、他学年の作品を友達と見ることで、感想を話す様子も見られた。

重点3 心を満たす場の工夫

「作品展通信」を通して、児童に、頑張してほしいことや、鑑賞の視点などを与えることで、保護者の方にも製作した児童の思いに寄り添ってもらえるようにした。

作品展で展示をする題材でもあったので、学年全体での鑑賞や他学年との交流、保護者の方との鑑賞が可能になった。また、全校児童に「作品展通信」を出すことで、題材は違ってもどんな思いや目標をもって製作したのかを理解し、鑑賞の視点を与えることができた。保護者の方にも自分の子どもと一緒に鑑賞してもらうようお願いし、作品のポイントや苦労したことなど、対話を行ってもらうことを意識することで児童が目を輝かせて自分の作品を紹介する姿もたくさん見られた。



子どもが自分の作品の頑張ったことや、描いてある、一つ一つの意味を教えてくださいました。



色や表情を暗くしているね。悲しい感じを出したの？



そうだよ。見る人に、大変だ！と思わせたかったんだ。



【作品展通信の一部】

児童の作品例



【生き物と海を大切に】

この児童は、「海の豊かさを守ろう」の目標から、プラスチックごみに苦しむ亀を表現した。悲しい表情やたくさんのごみ、海の色塗り分け、特に亀の甲羅は何時間もかけ細かくこだわっていた。完成した児童の表情は、とても満足感にあふれ、友達からも称賛の声をたくさん掛けられ、誇らしげな様子であった。



【世界中のみんながきれいな水を使えるようにしよう】

この児童は、「安全な水とトイレを世界中に」の目標から、きれいで幸せな様子が出るように、キラキラをつけたり、色をカラフルにしたりする工夫をした。水とトイレだけではなく公園や森も描いて、豊かな暮らしもイメージした。

4 活動の振り返り

重点1 自分で選んで決める場の工夫

SDGs 17の目標から、自分が気になる目標を決めることで、描く絵を自分事としてとらえる児童が多くいた。また、言葉から思い浮かぶことを絵に表す、画用紙や画材も自分で選ぶことで同じ絵は1枚もなく、友達と比較して落ち込んだり、やる気がなくなったりする児童はいなかった。むしろ互いの違いや良さを認め合う姿がたくさん見られた。

重点2 つながる場の工夫

学年全体で集まり意見を交流したことにより、多様な考えや価値観に触れることができた。そこから作品づくりに向けても、広がった思いから自分が表したいことをまとめ、自分らしい作品づくりにつなげることができた。また、製作途中の作品も廊下に掲示することで他のクラスの表現を知ったり、作品について話し合ったりする様子も見られた。他教科の学習でも、友達の良さを認めたり、取り入れたりする様子が見られた。

しかし、友達とつながれる場が常にあることから、製作のスピードが遅くなってしまいう児童が少なからずいた。

重点3 心を満たす場の工夫

正解はない、自分らしくて良いという思いを初めにもたせたことにより、友達を認める様子や声掛けが多く見られた。また、表したいことを強く意識することで、自分自身の表現に自信をもつことができた児童も多くいた。保護者の方にも「上手い」「下手」という判断基準ではなく、「どうしてこのテーマにしたのか」「どこを頑張ったり、こだわったりしたのか」など、製作した児童との対話をしてもらえるよう工夫したことで、児童の満足感につながったように思う。「自分の作品をうれしそうに紹介してくれました」という声もたくさん聞かれた。

しかし、心が満たされる状態は一人一人違った状態とも言え、さらには目に見えにくいものになる。それを数値化したり、目に見えて感じられたりする工夫が必要だと感じた。

III 研究のまとめ

本研究を通して、「何を」「どう表すか」について自己決定する場を増やしたことで、試しの量を増やすことができた。それにより、自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解する姿が多く見られた。また、作品への愛着や自分の思いをしっかりともつことができたように感じる。

意見や考えを交わすことで、意欲的に作品づくりに取り組む姿や、自分では思い付かないアイデアから新たな発想が生まれたり、より良い作品になるように工夫したりする姿を多く見ることができた。友達や保護者から多くの認められる声を掛けられたり、作品への思いを聞かれたりすることで、製作活動をふり返る機会にもなると同時に、満足感や充実感が満たされたと考える。

三つの場の工夫から、児童自ら生きて働く知識の習得につながったと考える。しかし、児童の心を満たすという場の設定には、まだ改善の余地はたくさんある。この研究をきっかけにして、児童がより図画工作を好きになり、日常生活や将来にわたって造形的な特徴をいかしていけるような造形活動を行えるよう、研鑽を積み重ねていきたい。